

# 被災地の看護師・介護士たち



全国訪問看護事業協会事務局長／健和会・看護介護政策研究所長 宮崎 和加子

## 海に向かってごめんなさい

地震・津波に伴い、ご家族が四苦八苦し、またご本人が変化したという話も聞きました。

## ベッドが津波に持ち上げられ…

ベッド上で寝たきりの父（Aさん）を介護していた娘さんは、地震が大きかったので津波がくると思った。何とか避難させようとしたが、体重が重くてどうしても一人では移動できない。あきらめかけていたが、「父を置いて逃げるのができない」

その時、津波が来た。もうだめだと思った。

ところが、Aさんが寝ていたベッドが水の上に浮いたという。

それで流されるのかと思ったら、階段のところに引つかかった。娘さんは、急いで階段の上からお父さんを引き上げて2階に避難することができて命が助かったという。

ベッドごと浮いたということと、ちょうど階段のところで止まったという偶然が重なり、命が助かったのだと思う。

## 「どうしよう」「どうしよう」

要介護5で自分では全く動くことができない女性（Bさん）。神経難病で意識は鮮明。同居している長男夫婦が介護をしている。地震のその日は、たまたま夫婦が揃って家にいたという。

大きな地震がきた。長男夫婦は津波が来るだろうと判断し、Bさ

んを避難させようと準備した。しかし、予測していなかったことと、慌ててしまって、スムーズに準備ができなかった。車椅子を探したり、空気を確かめたりしているうちに、窓から津波が来るのが見えた。「どうしよう……」「どうしよう……」

たぶんBさんが、「あなたたちだけ逃げなさい！早く逃げなさい！」といったのだと思う。それでも、長男夫婦はBさんを置いて逃げるができずに手を握って泣き続けていたんじゃないかと思えます。

そしたら、黒い水が家の中まで入り始めた！「早く逃げなさい！」というBさんの言葉に、長男夫婦は「お母さん、ごめんなさい……」と、家の2階に慌てて駆け上がった。

た。水はそれでも追いかけてどんどん浸水し、二人は2階から屋根に上った。水は屋根の上までではなかった。

一晩、泣いて大声で『お母さん、ごめんなさい』と……

周辺の水が引かず、屋根の上に乗ったままの長男夫婦は、一晩中屋根の上でいたという。

雪が降り、真つ暗な夜……。海に向かって大きな声で、泣きながら『お母さん、ごめんなさい』『お母さん、ごめんなさい』『お母さん、ごめんなさい』……とずっと叫んでいたそうです。

何と切ない話でしょう。この話を思い出すたびに涙がこみ上げてきます。こういう話が数え切れなほどあるのだと思います。

**助** ヘルパーさんが車椅子を押しして救

日中、一人暮らしの要介護5のCさん。1日2回訪問介護でヘルパーが訪問している。体重が重くて本人一人では寝返りも移動もできない。かといってヘルパー一人

の力でも車椅子に移乗できなく二人の手が必要。

地震の日は、ちょうどヘルパー(Dさん)が訪問している時間帯だった。事務所に残っている同僚は、CさんとDさんを心配していた。DさんがCさんを残して避難するのか、それとも一緒に津波にのまれてしまったのか……。

結果は……。

なんと、Dさんは一人でCさんを車椅子の乗せ、坂道を登って高台に避難し、二人とも助かったのだそうだ。

「Dさん、どうやってCさんを一人で車椅子に乗せたの？」

「私、乗せたのかしら？ 何をどうしたか全然覚えていないのよ」

### デイで助かるも家族が…

岩手県陸前高田や大船渡で聞いた話。地震は14時46分、津波はその20分・30分・40分後から複数回。つまり午後の時間帯だった。

高台にある老人保健施設併設のデイサービスには、その日も多数の高齢者が海辺の町から通ってき

ていた。高台だったために命は助かったが、海辺の家やその近くで仕事などをしていた若い家族たちが津波にのまれてしまった。家も家族も失い一人になってしまった高齢者が少なくないという。

### いつも「死にたい」といつている女性が…

福島を訪問看護師さんから聞いた話。いつも「死にたい」といつているEさん(女性・80歳代)がいた。どうやっても心が晴れず、こもっている。どう支援するべきか、訪問看護師は迷ってばかり。

ところが、原発の事故で放射性物質の被爆の問題がテレビなどで騒がれるようになった。ある日、訪問したら、その方が訪問看護師になんといったか。

「私は被曝は大丈夫かね」と聞くんですよ。本当に死にたいのなら、被爆云々はどうでもいいことなのね……。「ええっ、被爆が心配なんですか……。」と一瞬、言葉にならなかつたという。

笑うに笑えない、でもつい笑っちゃいましたという話。

### 寝てばかりの人が掃除を

ゴミだらけでなかなか家の中がきれいにならないお宅。その話をすると嫌がられ、「そのうち自分でやるから」と。そして、動けるのに寝てばかりいるFさん(92歳・男性)。ところが、この地震・津波・原発事故を機に、何を思ったか掃除をはじめた。本当にやり始めた。只今、時間をかけながらの掃除・片付けの真っ最中とか。

### うつ病の人が野菜作りを

うつ病で、いつもは動けないでいるGさん(女性・60歳代)。震災後に訪問したところ、人が変わったように動き始めたという。今回の震災で「こんなことはしてられない」と畑仕事を始めたのだと。「看護師さん、自分が作った野菜なんだ。もって行って食べてください」と差し出してくれた。ええっ、まあ、なんというか……。自然の大災害は、人の行動を変容させる。人の生きる価値観を変える。のではないのでしょうか。私自身、自分の生き方について



岩手県 (4月19日)

軌道修正しようかと真剣に考え始めていますところですよ。